

住んでよし！訪れてよし！

沖縄県立開邦高等学校

3年生 與崎 夢乃

島を流れる風は、島の自然と文化を鮮やかに彩り、多くの人々の注目を呼び集める。毎日、生活のどこかで観光立県化する沖縄をじかに感じるようになっている。私は、そのような沖縄を誇らしく思う。しかし同時にこう考える。「沖縄の観光は、普遍性を保ちつつ、時代の流れや観光客のニーズに合わせて進化していく必要がある」と。そのためにはこれから挙げる二つのことが必要だと考える。

一つめは、観光を観光地に暮らす人々と、そこを訪れる観光客双方にとって有益なものにすることだ。つまり観光のための環境整備が、そこに暮らす住民の日常生活にも有益なものとなる事が重要だ。その方策として鉄軌道である「路面電車」の設置を提案する。

中学生の頃、私は修学旅行で長崎を訪れた。長崎市には路面電車があり、どこまで乗っても、何度乗り換えても一律百三十円といったリーズナブルでかつ便利、そして渋滞に悩まされずに観光を楽しむことができた。

路面電車は、バスと同様に路上から気軽に乗ることができ、渋滞に巻き込まれることがない。また駅もバス停と同様の形態なので、建設コストも抑えることができる。そのため多くの駅設置が可能で、都心部のみならず、様々な場所で乗降できる。更に、排気ガスもなく環境にも優しいのだ。観光客の増加は、交通渋滞の一因にもなり、周辺住民の生活に悪影響を及ぼしているという実情もある。車社会の沖縄では、レンタカーが観光客の移動手段であり、交通渋滞は避けられない。やすらぎを求めて訪れる観光客にとって、交通渋滞はストレスとなる。これは「観光公害」という言葉が生まれるなど、世界的にも大きな課題となっている。「沖縄二十一世紀ビジョン基本計画」の中でも鉄軌道を含む新たな公共交通システムの導入に向けた取り組みがなされているようだ。

二つ目は、地域の人々と観光客の交流を通して地域の活性化を図ることだ。昨年、私は学校の探求活動で、那覇市の中心商店街、まちぐわーを活性化させるという研究を行った。

研究対象とした那覇市のまちぐわーの経営者達は、昔に比べてまちぐわーの活気が希薄になっているのを実感していた。しかし、フィールドワークを通して、まちぐわーを訪れる観光客数が増加していることが分かった。そして、実際に訪れる観光客にまちぐわーの魅力を聞くと、そこで働く人々とのふれあいや、その独特な雰囲気求めて訪れていることが分かった。まちぐわーを活性化させる施策を考える探求で、私は沖縄の可視化できない魅力に気づかされ、これこそが沖縄の観光を考えるキーポイントだと思った。まちぐわーは、沖縄の雰囲気を存分に楽しめる重要な観光資源なのだ。それをうまく活用でき

ば、衰退傾向にある商店街も、新たな形で復活するに違いない。

沖縄の商店街には、そこで働く人懐っこい人々や、観光客には目新しい沖縄独特の食材等沖縄らしさを残し独特な雰囲気がある。また色鮮やかで魅力的な建物などが多く、彩り豊かだ。これらを有効活用して SNS で魅力を拡散すれば、多くの若者の目を引くことができる。また魅力あるイベントの実施も有効な手段だ。私たちが開邦高校生を対象に行ったアンケートでは、若者は本屋やカフェ、服屋、雑貨屋に興味があることが分かった。このデータを利用して、スタンプラリーを実施する。商店街の各店舗から商店街に関するクイズを出題してもらい、観光客に探索してもらう。問題に正解しスタンプを集めると、カフェや雑貨屋で割引券と交換し利用できる仕組みにする。そうすることで、実際にまちぐわーを見て回ってもらい、消費を促すきっかけを作ることができる。他にも、海外でよく見られるように、商店街の中に大胆にグランドピアノを置き、自由に演奏できる空間を用意するイベントも良案だろう。そこに三線が加わり、カチャーシーが始まれば沖縄らしいムードを十分に楽しんでもらえるだろう。

このように、単に見て回る観光だけではなく、積極的に参加して楽しむ体験型の観光は、観光客を沖縄の魅力に更に引き込む力がある。体験型という意味では、地域の伝統的な祭りを体験できるプログラムも有効かもしれない。過疎化で以前のような活気が失われつつある地域の祭りに、何らかの形で観光客が参加し、体験できれば思い出深い経験となるし、地域の活性化にもつながる。観光客のニーズを先取りするコンテンツ開発は、さらなる沖縄の観光業発展に大きく貢献するだろう。

沖縄の観光業発展を持続するには、「ハードパワーも大事だが、ソフトパワーを意識する」こと、つまり文化や人々の心を大切にし、ビジョンに即した観光でなければならない。そして観光は、観光客と沖縄の人々双方にとっての生きがいや安らぎを生み出し、生活のゆとりと潤いに寄与するものでなければならない。

観光客は沖縄独自の自然、歴史、文化を楽しむために沖縄を訪れる。そして、沖縄に暮らす私たちには、その自然や伝統文化を後世に残すために努力する義務がある。沖縄に暮らす私たち全員が観光資源であり、一丸となって協力することでしか観光立県沖縄は成り立たないし、未来の美しい沖縄はあり得ない。沖縄のさらなる発展のために今こそ沖縄の軸、県民の心を、文化を再確認しなければならない。